

「水とともに生きる」

豊秋小学校 5年1組

みやざき あんな
宮崎 杏菜

「このダムの水の下に、お父さんがすごし
ていた中学校があつたよ。」

私たち家族が草津へ向う車の中で、父が私
にそんな話をした。雲ひとつない空。車から

見える周囲の新緑の山々。まどを開けると清
々しい風がふきこんでくる。標高が高いため

八重桜も5月のこの時期に見ごろをむかえて
おり、道ばたには美しい花々もさいていた。

ダムの湖面はすみ切つたような青色。そんな
ダムの下に、中学校があつたなんて、想像が

できない。
草津に着いて車の外に出てみると、少しは

だ寒かつた。山の頂上が手にとくような場
所にある。標高の高さを感じた。初めて湯畑

を見たのだが、温泉があふれるいきおいでわ
き出ていることにおどろいた。温泉街には手

あらい用の温泉が流れていたり、足湯ができ
る場所もたくさんあつたりした。時間がたつ

につれてお客さんでにぎわい。まるでお祭りのようだった。

草津からの帰り道、行きで見たダムの近く、道の駅によった。そこにはハツ場ダムのジオラマがあった。それを見ると以前使ってた道路や線路が湖面の下にあった。ジオラマを見ながら、

「お父さんの友達の家も、ここにあったんだよ。」

と指差しながらなんとなくさびしそうに父が話した。

ジオラマの近くにあった資料を見ると、このハツ場ダムは、

「防災操作、流水の正常な機能の維持、新規都市用水の供給並に発電を目的として令和二年三月末に完成しました。」

と書いてあった。ハツ場ダムには洪水被害をふせぐ役わりや、ためた水を群馬県だけでなく埼玉県、東京都、千葉県、茨城県の水道用水、群馬県や千葉県の工業用水にも使うこと

を知った。
私がふだん使っている水も、利根川からの
水を使っている。と四年生の社会で学んだ。こ
のダムの水もやがて利根川へと合流する。こ
のダムと私のくらしとは、実はとても身近か
なものなのだ。という。ことに気づいた。いや、
私だけでは。ない。下流に住む人々のくらしを、
このダムがささえているのだ。草津で楽しそ
うに観光していたお客さんたちも、実はこの
ようなダムによつてささえられているのだ。
夕方、家に帰ってきて、庭の花に水やりをし
た。あたたかい風にふかれ、ゆれる花をなが
めながら今日の出来事を思い出していった。わ
き出る温泉、緑豊かな自然。そして美しいダ
ムの湖面の下には、かつての人々のくらしが
あったこと。私たちが何気なく使っている水。
じゃぐちをひねれば出てくる水。それは決ま
て当り前ではない。この水が私たちとどこま
で、多くの人々が関わり、てくれている。ま

た、ダムを作るために新しいくらしを送るこ
とになつた人もいる。色々な人のささえのお
かけで、私は生きることが出きているのだと、
実感した。

水について考えるということは、げんざい
だけでなく、かも、未来にもつながること
なのかもしれない。とても身近だけど、すこ
く大切なそんざいである水。私はこの水と
もに生きていたい。未来へとこの美しい水を
つなげることが出来るよう、私は水を大切に
したい。